

Bridge ~市民病院と地域をつなぐ~

— 目次 —

- 院長からのご挨拶
- 新任副院長の紹介
- 新任医師(部長)の紹介
- 入退院支援センターの新設・拡充
- 登録医ご紹介のデジタルサイネージ設置
- チーム医療④ 褥瘡対策チームの紹介

vol.8
2020. 6月

発行: 豊橋市民病院 患者総合支援センター

院長からのご挨拶

Bridgeは、かかりつけ医の皆様には豊橋市民病院の活動の一端をお知らせする情報機関誌です。今回発行の第8号の内容は、最初に新年度の人事の紹介です。病院幹部の交代と複数の診療科に新任部長をお迎えしました。いずれも経験豊富で有能な人材で、これまで以上に充実した医療を提供できるようになります。

次に患者サービス向上のための入退院支援センターの新設・拡充とデジタルサイネージの設置、チーム医療のコーナーでは褥瘡対策の取り組みを紹介しております。ぜひご一読ください。

さて現在、中国から発したパンデミックによって市民の生活が揺るがされています。当院は感染症指定医療機関として、医師、看護師をはじめとする多くのスタッフがこのウイルスと戦っています。4月7日緊急事態宣言が発出され、日本全体に緊張が走りました。この感染拡大は私共が担うべき日常医療に大きく影響を与えています。この危機を乗り越え、地域の人々の健康を守るという病院の使命を全うするために、皆様のご理解と協力をお願いする次第です。この機関誌が発行される5月末に終息の目途が見えていることを願うばかりです。



院長: 加藤 岳人

新任副院長の紹介

小山 典久

(コヤマ ノリヒサ)

副院長
兼感染症管理センター長
兼卒後臨床研修センター長

豊橋市民病院副院長を拝命致しました小山典久です。このたびは豊橋市医師会理事に推薦いただき、とても光栄に存じます。医師会の先生方との連携を大切に、地域医療に貢献していく所存です。

実家は市内の湊町で、旧市民病院があった松葉町とは隣町です。幼い頃から市民病院にはなじみが深く、廊下に記された黄色い線をたどって放射線撮影室にたどり着いたこと、院内の売店でおもちゃを買ったことなど懐かしく思い出されます。平成6年に当院に赴任し早26年、この間新病院移転に伴いハード面が刷新されたのみでなく、医療の内容やシステムも大きく変革しました。診療、教育、研究と当院の果たすべき役割は多岐にわたっています。

今回、感染症管理センター長、卒後臨床研修センター長も拝命し、責任の重さをひしひしと感じています。当院の役割を自覚し、しっかり責任を果たしていきたいと存じます。

今後ともご指導のほどお願い申し上げます。



平松 和洋

(ヒラマツ カズヒロ)

副院長
兼一般外科第一部長
兼救急科部長
兼救急外来センター長

豊橋に勤めて今年で16年目を迎えようとしておりますが、この4月から副院長の職に任ぜられました。これまでは外科医として病院に尽力してまいりましたが、これからはもう少し上の立場から務めていかねばならないということで大変身が引き締まる思いであります。

私の与えられた任務としては、まず救急部門の統括であり、この一層の充実と職員の安全確保、勤労状況の改善であります。救急は病院にとって大切な顔であると同時に医療過誤などが発生しやすい危険な部署であるため細心の注意をもって進めて参ります。地域の先生方には、これまでも大変なご協力をいただいておりますが、私自身、東三河の救急医療のさらなる発展につなげるべく微力ながら努力する所存ですのでこれからもよろしくお願い致します。



新任医師（部長）の紹介

呼吸器内科

牧野 靖

(マキノ ヤスシ)



呼吸器内科第一部長

平成11年名古屋大学卒業の牧野靖と申します。当院に赴任するまでの7年間は中東遠総合医療センターで呼吸器内科の立ち上げを行ってまいりました。静岡の掛川と袋井の市民病院を統合した500床の病院で、科は新設であり、常勤医2名でのスタートでしたが、現在常勤医が5人いる科になりました。こういった点を、名大の医局に認めていただき、こちらへの異動の話をいただきました。

当院は名大の医局の関連病院の中でも、非常に症例豊富な病院です。この素晴らしい環境を活かせるよう現在常勤医が7名ですが、さらなる医師の増加を目指し、教育、学術的な面に力をいれたいと思っております。地域の先生方には、質の良い安全な医療を心がけることをお約束します。なにとぞよろしくお願いいたします。

小児科

村松 幹司

(ムラマツ カンジ)



小児科第一部長 兼小児科(新生児)第一部長 兼総合周産期母子 医療センター長(新生児部門)

4月より小児科部長を拝命いたしました。

私は小児科の中では新生児を専門としています。前任地名古屋市立西部医療センターでは周産期センターNICUでの勤務が主でしたが、この度は小児科全体を統括するよう指示をいただきました。

豊橋市民病院は28年前に研修医としてお世話になっており懐かしさを感じる反面、あまりに大きく先進的となった病院に若干戸惑っています。当時教えをいただいた諸先輩方が市内で開業されていることは大変心強いばかりです。これを機に地域の諸先生方には再びご指導ご鞭撻をいただきたく存じます。

乳腺外科

藤井 正宏

(フジイ マサヒロ)



乳腺外科部長 兼外来治療センター長

はじめまして。今年の2月1日付けで、岡崎市立愛知病院乳腺外科(旧愛知県がんセンター愛知病院乳腺科)から、赴任してきた藤井正宏と申します。

前任地では11年間勤務しました。私は三河生まれ(豊田市)の三河育ちです。これまで、西三河で乳腺診療(診断・治療)で、地域の医療に邁進してきましたが、これからは東三河の地で乳腺診療を通じて皆様にお役に立てる様に頑張ります。

当院の特徴の一つに、広範な地域から患者様をご紹介して頂いていることが挙げられると思います。受診して頂く患者様に、納得して頂ける医療を提供できる様に努力致しますので、皆様のご助力をお願い申し上げます。

今後ともよろしくお願いいたします。

救急科

石井 健太

(イシイ ケンタ)



救急科副部長 兼救急外来副センター長

平成21年に名古屋大学卒業後、

豊橋市民病院で初期研修と一般外科での後期研修で計5年間お世話になり、このたび7年ぶりに豊橋へ帰ってまいりました。ベースは消化器外科ですが、約5年間救命救急医としての研修を積み、救急科専門医を取得することができました。専門とする領域としましては重症外傷・重症急性腹症の初期治療および集中治療になりますが、病院前診療、災害医療等も含め、様々な場面で東三河の救急医療に関わっていけたらと考えております。救命救急センターは24時間365日、重篤な患者を受け入れ続けることが最大の使命ではありますが、当院におきましては「地域のER」としての機能もまた重大な任務と考えております。赴任直後よりCOVID-19感染症対策に追われ、また若輩者です。至らぬ点も多々あるかと思いますが、皆様方より御指導、御協力をいただき東三河の救急医療の発展に尽力していきたいと考えております。

令和2年4月より豊橋市民病院に赴任しました。今後ともよろしくお願いいたします。

入退院支援センターの新設・拡充



令和2年4月より、入院説明と支援のために新たなブースを設置しました。
設置場所はアトリウムに面した外来診察室に近い診療棟1階で、エコー室であった場所を改装しました。内部は木目調の個室で、落ち着いた環境で入院前のお話ができるようになりました。

登録医ご紹介のデジタルサイネージ設置



入退院支援センター入り口には当院の地域の先生方や施設をご紹介するデジタルサイネージを設置しました。画面の上段では施設名をテロップ表示し、中段では診療所の外観、住所、診療科目、特徴のご紹介、下段ではかかりつけ医制度の説明を表示しています。

デジタルサイネージ横に設置した患者用タッチ検索システムでは、患者自身が登録診療所の情報を検索し、内容を印刷して受診の参考にすることができます。

システムへの掲載や掲載内容の変更等のご要望がございましたらご一報ください。

【地域連携登録医制度】

豊橋市民病院では、東三河南部医療圏内(豊橋、豊川、蒲郡、田原)にある地域の医科、歯科の医療機関の先生方と相互の機能向上を図り、連携を深めることにより、地域医療の充実及び発展に資することを目的として、「地域連携登録医制度」を設置しています。

本制度に登録されますと、開放型病床の利用(共同使用料等の算定も可能)、当院の医学情報室、研究室等のご利用に加え、医学文献の複写サービスもご利用いただけるようになります。また、当院で開催する研究会、研修会のご案内をはじめとした情報提供を定期的に行っています。尚、当院のデジタルサイネージでの表示も地域連携登録医制度でご登録された施設となっています。

チーム医療④ 褥瘡対策チームの紹介

褥瘡対策チーム

褥瘡は、皮膚の摩擦・ずれ・圧迫といった局所的要因や栄養状態の低下、基礎疾患などの要因により発症し、QOLを著しく低下させます。当院の褥瘡対策チームは、褥瘡の発生予防、早期発見、改善・治癒を目的として平成14年3月から活動しています。

対象者は、主に褥瘡報告書の深さd2以上の褥瘡保有者です。その中には、弾性ストッキングやNPPVをはじめとする多様な医療器具の使用によって発生した医療関連機器圧迫創傷も含まれ、年を追って対象となる方は広がっています。また、褥瘡ハイリスク該当患者さんのラウンドやカンファレンスを行うなど予防ケアにも努めています。

チームは、図に示すようなスタッフで構成され、週1回のラウンドを行います。対象病棟では訪問前カンファレンスを経て、創部の適切な洗浄と処置の確認と指導を行い、チームの各専門の立場から状況に応じたケアの方法、薬剤、体位変換、栄養の摂り方等を担当看護師や今後のケアにかかわるスタッフ、家族に提案しています。ラウンド後は継続してケアが行われているか状況を確認し、改善に向けフォローしています。



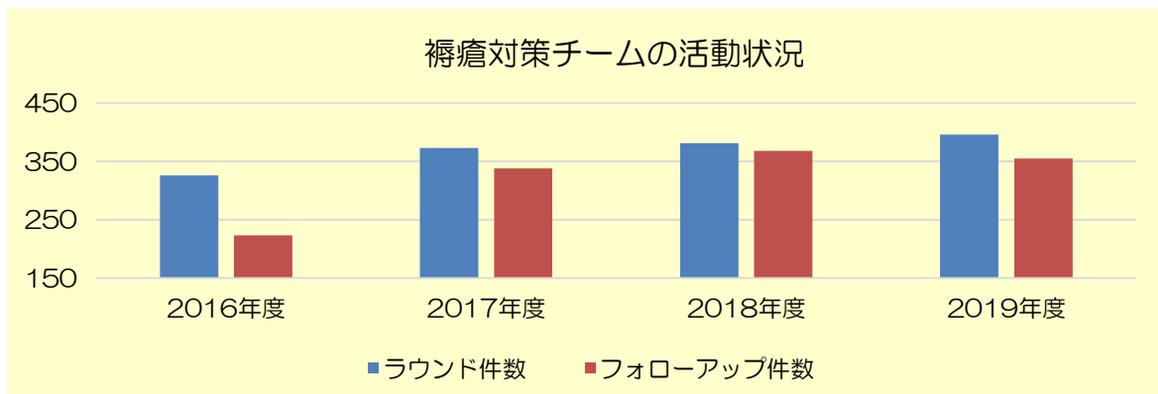
褥瘡カンファレンス



【メンバー構成】

【チームの役割】

1. 患者さんの褥瘡発生のリスクを評価し、褥瘡対策が必要かを判断する。
2. 患者さんに適切な褥瘡対策が実施されているか確認する。
3. 患者さん個人に合った褥瘡対策を実施できるように指導・助言する。
4. 褥瘡対策にかかわる体制を確保する。
5. 適切な褥瘡対策を実施できるように、病院職員を対象に研修を行う。



※褥瘡対策チームは【チームの役割】を果たすべく、日々丸となって活動をしています。



この広報誌に関するご意見・ご要望は下記へお寄せください

豊橋市民病院 患者総合支援センター

〒441-8570 豊橋市青竹町字八間西50番地 TEL (0532)33-6111(代) 内線1491
FAX (0532)33-6230